

「忖度」について思うこと

篠崎 辰夫

久しぶりにこの言葉を耳にした。今、大揉めに揉めている森友学園問題で、この「忖度」という言葉が大きなキーワードになっている。

「忖度」・・「そんたく」と読み、辞書には「他人の心を推し量ること」とある。あの人はこう言っているが、その真意はこういうことだろう、と考えて行動すること。それができないと、あいつは配慮がない、空気を読まない、という評価になり、必要な処世術の一つでもあると言われている。

ただ、問題なのは、これを上手く使って上司に取り入れ、昇進する輩(やから)の多いこと。こうやってえらくなった輩は、部下に対し「忖度」を強いてくるようになり、「忖度」が強制力を持つてくる。こうなると組織はエライことになる。

ということで、「忖度する」という表現は、今どちらかという悪い意味に使われることが多いようだ。上司に関してよく使われても、同僚や部下に関して「忖度する」という表現はあまり聞かない。

ところで、今回の森友学園問題は、その後泥沼化の様相を呈しているが、官僚の「良からぬ忖度」が本当になかったのかどうか、裏でもっと大きな権力や圧力、力学が働いていなかったかどうか、「忖度」がこの問題の真犯人なのか・・・真相解明を待ちたい。

「忖度」という言葉は、思いやりのある、美しい日本語のように思っていたが、今回の森友学園問題でイメージが大きくダウンしてしまったようだ。国民の思いを「忖度」して、それを実現していくのが政治家、官僚の仕事だと思うが、もっと我々一般市民のために「親切な忖度」、「市民ファーストの忖度」をお願いしたいと思う。「忖度」を、本来の美しい日本語に戻して欲しい。

2017/03/25

<余談>

昔、各地の小学校などに多く建てられた、薪を背負いながら本を読んで歩く「二宮尊徳」(にのみや・そんとく)の銅像。その後「児童の教育方針に合わない」、児童が像の真似をすると交通安全上問題がある等から、校舎の立替時などに、徐々に撤去されている。

森友学園の小学校がもし実現していたら、こんな銅像が建てられていたかも知れない。・・・元名誉校長「安倍昭恵夫人」の銅像で、

題して「二宮忖度」(にのみや・そんたく)銅像。